

第12回教育委員会（臨）

開会日時 令和5年5月26日（金） 午後 6時30分
閉会日時 午後 7時03分
開会場所 教育支援センターABC

出席者

教育長 中川修一
委員 高野佐紀子
委員 青木義男
委員 野田義博

出席事務局職員

事務局次長	水野博史	地域教育力担当部長	雨谷周治
教育総務課長	諸橋達昭	学務課長	金子和也
指導室長	氣田眞由美	新しい学校づくり課長	柏田真
学校配置調整担当課長	早川和宏	施設整備担当副参事	伊東龍一郎
生涯学習課長	太田弘晃	地域教育力推進課長	河野雅彦
教育支援センター所長	石野良恵	中央図書館長	松崎英司

署名委員

教育長

委員

【第1部】第12回教育委員会

午後 6時 30分 開会

教 育 長 皆様、こんばんは。板橋区教育委員会、教育長の中川でございます。
今日は、皆様、お忙しい中、ようこそいらっしゃいました。
ただいまから、教育委員会を始めたいと思います。
座らせていただきます。
開会に先立ちまして、私から一言ご挨拶申し上げます。
皆様には、日頃より板橋区の教育行政にご理解とご協力をいただき、まことに
ありがとうございます。
教育委員会は、教育長と教育委員4名で構成する合議制の執行機関であり、月
2回ほど定期的に会議を開催し、教育行政の運営に関する基本的な方針や重要な
事項について、審議・決定しています。
今回は、「身近な教育委員会」として、令和5年第12回の会議を開催いたし
ます。
それでは、委員の紹介をいたします。
高野教育長職務代理者でございます。
青木委員でございます。
野田委員でございます。
本日は、3名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立しております。
なお、長沼委員からはご欠席の連絡が入っております。
それでは、ただいまから、令和5年第12回の教育委員会を開催いたします。
本日の会議に出席する職員は、水野次長、雨谷地域教育力担当部長、諸橋教育
総務課長、金子学務課長、氣田指導室長、柏田新しい学校づくり課長、早川学校
配置調整担当課長、伊東施設整備担当副参事、太田生涯学習課長、河野地域教育
力推進課長、石野教育支援センター所長、松崎中央図書館長。
以上、12名でございます。
本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により、野田委員をお願いいたし
ます。
また、本日は、多くの方に傍聴にお越しいただいておりますが、会議規則第3
0条により許可しましたので、お知らせいたします。
また、本日は、左側奥に校長先生方にお越しいただいております、ご紹介いたしま
す。
金沢小学校 飯田校長先生。
上板橋第一中学校 長岡校長先生。
以上2名の校長先生方にも、この後、お話をいただきます。
本日の会議では、「板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進～「地域
とともにある学校」をめざして～」を報告事項とし、意見交換を行っていきたく
と思います。
それでは、早速ですが、「板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進～

「地域とともにある学校」をめざして～」について、地域教育力推進課長より報告願います。

地域教育力推進課長 地域教育力推進課長の河野でございます。日頃から大変お世話になっております。

それでは、早速、「板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進」について、報告をさせていただきます。

お手元の資料とスライドを使ってご説明をさせていただきます。

資料は、資料の1ページの下のスライドになります。

本日、初めてご参加いただきました方、また、初めて板橋区コミュニティ・スクール（iCS）をお知りになられた方もいらっしゃると思いますので、導入の経緯からお話をしたいと思います。

「iCS」は、「板橋区コミュニティ・スクール」の略称になります。

こちらにありますように、板橋区では、従来から学校支援地域本部による学校支援活動を盛んに行ってまいりました。

この学校支援地域本部とは、保護者や地域の方々にご参加いただきまして、学校の教育活動を支援する仕組み、活動のことをいいます。

下の年表にありますように、板橋区では平成20年からスタートしております。これは全国でも大変早い取組になります。

その背景ですが、教育基本法という法律が平成18年に改正されました。今から17年前のことになります。そこで、学校・家庭・地域の連携教育ということが定められました。

その趣旨は、中段にもございますように、学校が抱える課題が多様化・複雑化しています。そして、子どもの教育を取り巻く環境も大変大きく変化しています。

そこで、これからの時代を生き抜く力を育てていく上では、学校での教育だけではなくて、学校だけでは得られない地域での経験も重要だということで、学校・家庭・地域の連携が重要視されることとなりまして、地域とともにある学校をめざした取組が進められるようになりました。

このような動きから、学校運営協議会、こちらは保護者や地域の方々にご参加いただきまして、学校の運営を協議する組織でございますが、学校運営協議会も法律で設置が努力義務化されまして、板橋区におきまして、令和2年度に全校でCS委員会、コミュニティ・スクール委員会を導入いたしました。

次に、「地域とともにある学校とは？」ということでございます。

資料2ページ目の上のスライドになります。

地域とともにある学校とは、学校が地域の皆様と目標やビジョンを共有して、地域と一体となって子どもを育む学校のことを言います。

「地域の子どもを地域で育てる」という風土は、子どもたちの成長につながる大変重要な要素でございます。

この板橋区コミュニティ・スクール（iCS）という仕組みを通して、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てていくことで、こちらの下3つの箱の

部分になりますが、学校では、地域の力を生かした学校運営ができる。

真ん中の部分です。子ども・保護者・家庭では、地域の中で子どもを育てることができる。

そして、地域では、学校を核とした地域のつながりを深めることができるといった、地域の活性化につなげていこうというものでございます。

続きまして、「iCS」のイメージでございます。

資料では、2ページ目の下のスライドになります。

iCS、板橋区コミュニティ・スクールは2つの活動から成り立っています。

1つ目は、左側、コミュニティ・スクール委員会です。これまでは「学校運営協議会」と呼ばれていました。保護者や地域の方々にご参加いただきまして、学校のビジョン、目標を協議したり、学校が抱える困り事について解決策を協議する、そうした活動を行う委員会になります。

この活動を例えて言いますと、コミュニティ・スクール委員会は、みんなで学校の運営を考える経営部門ということができるところでございます。

そして、もう1つの活動は、右側の学校支援地域本部です。

保護者や地域の方々にご参加いただきまして、学校の教育活動の支援を行う活動になります。

学校には支援をお願いしたいことがあって、一方では、地域にはそうした希望に応えていただける人材がいらっしゃいます。この橋渡しを行うのが地域コーディネーターでありまして、その橋渡しの下、地域の方々が学校の支援活動を行うというものでございます。

こちらを例えて言いますと、学校支援地域本部は、みんなで学校支援の活動を行う実働部門ということができるところでございます。

このように、左側のコミュニティ・スクール委員会と、右側の学校支援地域本部は、それぞれ保護者、PTA、また、地域人材や地域団体の皆様に参加や支援をいただきまして、学校を支えていただいているというものでございます。

このように、板橋区コミュニティ・スクール（iCS）は、地域とともにある学校をめざして、コミュニティ・スクール委員会と学校支援地域本部が両輪・協働として取り組む仕組み、活動のことでございます。

資料は3ページ目の上のスライドになります。

CS委員会、コミュニティ・スクール委員会での熟議でございます。

ここで「熟議」という言葉が出てきますが、その意味は、多くの当事者が熟慮と討議を重ねながら、共通認識をもって課題を解決していくことを言うものでございます。

実際に、各区立小学校のコミュニティ・スクール委員会でどのように熟議が行われているのかということをもとめさせていただきました。

各学校の置かれた状況のまとめでございますので、ご覧いただけるように、熟議のテーマも大変幅広い内容となっているものでございます。

次に、「iCS」の取組による成果のスライドでございます。

資料では、3ページ目の下のスライドになります。

板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の取組で具体的な成果を上げた緑小学校の事例をご案内したいと思います。

緑小学校では、かねてから地域のグリーンボランティアの皆様にご協力いただきまして、緑豊かな学校の特徴を生かした環境教育を進めてまいりました。

その中で、校庭の改修工事が行われることになりまして、これに合わせて、ビオトープ、これは魚や植物が生息する池のことですが、ビオトープを作ることになりました。

そうした状況にある中で、左の部分、コミュニティ・スクール委員会では、子どもたちが総合学習の時間を使って、ビオトープの在り方を「ビオトープの未来図」としてまとめ上げました。

コミュニティ・スクール委員会では、このビオトープの未来図の実現に向けて、どのようなバックアップをしようかということで熟議を重ねられました。

そうした熟議を踏まえまして、右の学校支援地域本部の箱の部分になりますが、学校支援地域本部では、ビオトープの維持管理をバックアップしていこうということで、地域コーディネーターの方が調整役となっただきまして、地元の地域の木工クラブの皆様看板を作成いただくなど、ビオトープづくりが行われました。

このように、子どもたちが触れ合うビオトープを、自然とのつながりだけでなく、こうした人ともつながった、また、地域ともつながったものとして実践された事例となっております。

次に、資料では、4ページ目の上のスライドになります。

iCSアンケート調査の集計結果でございます。

コミュニティ・スクール委員、地域コーディネーター、学校に対してアンケート調査を行った結果でございます。

iCS（板橋コミュニティ・スクール）の活動の状況というものを垣間見ていただくことができるかと思います。

左上の部分、コミュニティ・スクール委員のアンケートでは、「学校支援地域本部がどのような活動を行っているか分かりますか」の質問には、「わかる」との回答が57%と多くなっております。

コミュニティ・スクール委員会と学校支援地域本部は、両輪・協働の関係ですので、この認知をさらに高めていきたいと考えております。

右上の部分、こちらは地域コーディネーターのアンケートで、「CS委員会で学校支援地域本部の活動が報告されていますか」との質問については、地域コーディネーター、あるいは学校が報告している、この2つの答えを合わせまして、報告されているとの回答が88%と大変多くなっております。

また、「CS委員会は、学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていますか」の質問には、「思う」とご回答いただいたものが55.8%と多くなっております。

このように、コミュニティ・スクール委員会と学校支援地域本部の両輪・協働というところが着実に進んでいる様子を垣間見ることができるところでございます。

す。

真ん中から下の部分になりますが、こちらの左下の部分の図になります。

「「地域とともにある学校」の実現に最も必要だと思う要素は何ですか」という質問でございます。

コミュニティ・スクール委員の回答では、「熟議の実施」が29%と高くなっております。こうした熟議を重要視している様子が伺えるところでございます。

では、その熟議の進行役でございます。

「ファシリテーターを誰が務めていますか」という質問です。

こちらは、校長と副校長を合わせて66%という状況でございます。

また、委員長を初めとした地域の方々が進行役を担っていただいているところは34%という回答になってございます。

教育委員会といたしましては、主体的な運営に向けまして、地域の皆様によるファシリテートをぜひ高めていきたいと考えているところでございます。

そして、右下の部分、学校のアンケートでございます。

「地域の力を活用することで、児童・生徒への指導に注力できる時間が増えたと感じる教員の割合」。こちらの質問では44.6%がそのように感じられたという回答になってございます。今年度は44.6%でございますが、昨年度は33.7%でございました。大きく増加している状況でございます。

こうしたところからも、iCSによる学校の支援が、教員の教育活動のやりがいにつながっている様子が見てとれるところとなっております。

このように、板橋区コミュニティ・スクール（iCS）は、地域とともにある学校をめざして、コミュニティ・スクール委員会と学校支援地域本部が両輪・協働として取り組む仕組み、活動でございます。この活動は、学校・家庭・地域の多くの皆様にご参画いただき、成り立っております。

令和2年度に立ち上げまして、本年度で4年目に入りました。

教育委員会といたしましても、板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の取組の定着を深めてまいりたいと考えております。

そうした裾野を広げていく上では、本日のこうした機会を含め、多くの皆様に知っていただくとともに、ご支援をお願いできればと考えてございます。

報告は以上になります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

教 育 長 学校を支援する地域の本部ですから、「学校支援地域本部」という名称でありますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、教育委員から所感を伺おうと思います。

高野委員、よろしくお願いいたします。

高 野 委 員 今の河野課長の説明の中にもありましたが、CS委員会が全校導入になったというのが令和2年で、そして、昨年度、令和4年度に、私は色々な学校のCS委員会に参加させていただきました。

学校によって、例えば児童全員を含めて熟議をした学校もありましたし、また、

大規模な学校の中では町会が抱える悩みなどもお話しいただいたり、また、全部の先生と一緒に熟議をする学校など、様々なCS委員会に参加させていただきましたが、どの学校も、それぞれの学校の規模ですとか、条件、また地域の様子によって、そのCS委員会の取り上げる問題は色々だったなというふうに思いました。そこで、皆さん、一生懸命、先生方と、それから、委員の方々と真剣に話し合っている姿というのが大変印象に残りました。

今回も、こうやって皆さんで、なかなか今までは情報を共有する機会ということが少なかったのですが、今日のように、色々な学校の方たちとお話をしたり、また、地域の方たちとお話をしたり、先ほどの緑小学校のようなよい事例をまた共有するというようなことで、今後、ますますコミュニティ・スクールが色々なことを取り上げていけるのではないかなというふうに思っています。

教 育 長 ありがとうございました。
 それでは、続いて、青木委員、お願いいたします。

青 木 委 員 河野課長のご説明、ありがとうございました。
 非常に具体的な内容についての説明だったので、皆様もある程度ご理解いただけたのではないかと思います。

 それでは、コミュニティ・スクール自体の在り方というか、本質というところで私からはお話をさせていただきたいのですが、これは、当然、やるからには、関わるコミュニティの推進に、皆様、いわゆる大人にとってという立場と、子どもにとってという立場、両方あるかと思えます。

 そもそも大事なのは、学校の先生方の、いわゆる負担軽減というような話が色々な形で皆様に伝わっているかと思えます。

 もちろん、それも重要ではありますが、今、大事だなというのは、よく世の中で使われる言葉の中で、「ダイバーシティ」という言葉がございます。ダイバーシティの本質の中には色々な意味合いが含まれています。

 今は、同時に非常に多様な社会になっているかと思えます。

 ジェンダーの問題のみならず、LGBTQの問題、それから、不登校の問題、様々な心の問題などが出てきたときに、これを学校組織の中では子どもたちというのをどこで見られるかという、学校の中にいる間、これが、当然ですけど中心になります。

 お家でどのような形でというのは、なかなか見られない部分もあります。その辺は、コミュニティ委員の皆様、そのような地域、あるいはご家庭での子どもたちについてのご意見をいただくということが、このダイバーシティ推進で非常に重要になってきます。

 ともすれば、子どもたちが色々な危機に直面した際の危機管理のためのダイバーシティ、これが非常に重要になってきます。

 いずれにしても、教育機関というのは、ある教員の集団ということになり、教育に対して真面目に向かえば向かうほど、ともすれば教育に対しての正しい方

向のみ見据えることになってしまう場合もあります。

このようなことでよく起こるのがグループシンクと呼ばれるお話です。集団浅慮と言われまして、学校が一体となるのはいいので、みんなが同じ考え方を持つのはいいのですが、必ずしもそれだけではない。ある面から見たときにはこういう考え方がある。先ほどの熟議の考え方です。こういうことが非常に重要になってきます。

ですので、コミュニティ委員の皆様から様々な意見をいただくということがいかに重要かということ、このダイバーシティの議論の中で皆様には1つご理解をいただきたいところです。

子どもたちにとっては、先ほど来、お話があったとおり、多くの目、地域の目、家庭の目、このようなもので見ていただき、声かけというのは子どもたちに安心感を与えるだけではなくて、当然ながら、自己肯定感、子どもたちが、私は、僕は大事にされているんだという思いが、これを大きく育むことになります。

ですので、このような大きな意味合いも含めてあるということで、ぜひ、コミュニティ・スクールに皆様のお力添えをいただきたいと思います。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。
 それでは、野田委員、お願いいたします。

野 田 委 員 野田です。よろしく申し上げます。

私からは、保護者の立場として、私は推進委員会2年を含めて、4年間、実際にコミュニティ・スクール委員として、現場で、このコミュニティ・スクールの立ち上げから活動までに参加させていただいて、また、この教育委員という立場で、また違った視点からこのコミュニティ・スクールについて見てきたというところからお話しさせていただきたいと思います。

立ち上げの段階では、どこの学校も、どのような方をコミュニティ・スクールの委員にお招きして、学校を支えていきたい、学校の応援団になってほしいというようなことで悩まれてきたとは思いますが、様々な事例を参考にさせていただきながら、全校導入して回り出しているところかと思えます。

本当に、どの学校でも熟議が行われて、様々な取組をされてきたと思います。

その中で、今回初めて、今日ここで、コミュニティ・スクールについて理解を深めていただいて、もっとコミュニティ・スクールの本質をよく知っていただいて、学校にとって、子どもたちにとって、また、地域、保護者の皆様にとって、大事な居場所づくり、そして、大事な学校、この教育行政に対する窓口となって、色々な方の意見を聞いていただきたい。そして、そのような意見をまとめて、熟議して、そして、学校にフィードバックする。

また、学校からの悩みを同じ立場で相談し合って、建設的に改善していく。そのようなところに地域や保護者の皆様のお力をお借りしたいというところを私からお願いしたいと思います。

この後のディスカッションで、様々なお立場におられる方のご意見もお聞きになると思いますので、積極的に、皆様のお考え、そして、分からない点はこの場で解消して、同じ方向を向いて盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

教 育 長 ありがとうございます。
次に、本日お越しの校長先生方から所感をお伺いしようと思っております。
飯田校長先生、お願いします。

飯 田 校 長 それでは、私は小学校側から所感を申し上げます。
まず、このコミュニティ・スクール委員会については、導入当初は、まずは校長が司会をして、そして、校長が学校の今の状況を報告するというような会議。そのような形で始まったかなというふうに思っています。それが変わってきたのは、教職員がその会に参加するようになって、まずは変わってきたかなというふうに思います。
ただ、当初は熟議ができるような状態ではなくて、それぞれがばらばらな意見を、ただ高射砲を打ち合うがごとく話しているような会だったかなというふうに思っています。
ただ、それが回を重ねることで、人と人が分かるということで、その中で会話が弾み始めました。
ただ、その話が始まった中で、今度は安全とか地域愛をどうするという話になったときに、実は、学校側が思っていることと、iCS委員さんが思っている安全の見方とか捉え方が違うんだということを感じ始めました。今後、その辺を生かしていくことが大事だということを感じてきています。
ということは、iCSの皆様ともその辺の違いがあるということは、もしかしたら、保護者の方との認識も違うのかなということで学校側が考え始めてきていますので、学校としても、今の状況をしっかり伝えていくこと、そして、どういう子たちに育てたいかということとを共有することがとても大事だということ、このiCSをすることによって感じてきています。
今後、子どもたちのためにこの会が運営できるようにしていきたいと考えてございます。
以上です。

教 育 長 ありがとうございます。
それでは、長岡先生、お願いいたします。

長 岡 校 長 上板橋第一中学校の校長、長岡と申します。
今の発表にもありましたが、学校においては、様々な課題というのはどの学校にもございます。
校長としては、学校経営方針、学校をどのような学校にしたいかというような

ところで考えているところなのですけども、その様々な課題を解決するに当たっては、学校だけではどうしてもできない部分もあります。そのために、地域の力というのがここで重要になってくると考えています。

今もあったのですけど、よく、一人の子どもを育てるためには学校と地域と家庭が三位一体となって子どもを育てていくのがいいというふうに言われているのですが、ここで、学校と家庭では1対1、自分のお子さんとの関係ですけども、地域となると学校と地域、全体で取り組むというような意識で、学校に協力をしていただければ助かるというふうに考えております。

それぞれの学校教育を進めるに当たっては、地域の力というのが重要になってきますので、所属する学校の課題は何か、その中で何ができるかというようなところを考えて、ぜひ、色々と協力をしていただけると助かります。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、本日の身近な教育委員会第1部を終了いたします。ありがとうございました。

午後 7時 03分 閉会